

## パンの奇跡

ヨハネによる福音 6:1-15

(そのとき、) イエスはガリラヤ湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。イエスは目を上げ、大勢の群衆が御自分の方へ来るのを見て、フィリポに、「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」と言われたが、こう言ったのはフィリポを試みるためであって、御自分では何をしようとしているか知っておられたのである。フィリポは、「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」と答えた。弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。そこには草がたくさん生えていた。男たちはそこに座ったが、その数はおよそ五千人であった。さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。人々が満腹したとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい」と言われた。集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。そこで、人々はイエスのなされたしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に来られる預言者である」と言った。イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでまた山に退かれた。

説教

いぜん TBS ラジオで放送していた「子ども電話相談室」は何年かまえに終わってしまいましたが、いまでは夏休み限定で NHK で似たようなラジオ番組をやっています。空はどうして青いの？宇宙と天国はどっちが遠いの？なんて質問が子どもたちから寄せられ、先生がそれに答えるという番組です。どうして石をパンにかえてはいけないの？どうやったら五つのパンと二匹の魚で大勢の人が満腹するの？

このような難問もラジオにまかせたいところですか、日曜日の礼拝でみことばを解き明かししなければ、教会サボってると指をさされてしまいます。

きょうの福音は四つの福音書すべてに同じ出来事 = 奇跡が記されています。電話相談を思い出したのは、同じような質問でも先生によって答え方が違うというところが、四つの福音書がそれぞれに違っていることに似ているなあと感じたからです。

きょうの福音はヨハネからですが、パンの奇跡についてマタイ、マルコ、ルカの福音書に比べると詳しく記録されています。マルコ福音がシンプルだとするとヨハネ福音は複雑というか詳しい（ややこしい、難しい）といえます。でもややこしいからこそ、理解するてがかりがたくさんあります。

<この出来事がいつおきたのか>

**ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。ヨハネ 6:4**

過越祭はキリスト教流に言えば復活祭 = イースターです。4 節の「近づいていた」からおそらく 3 月ごろだということが解ります。ところで、ヨハネ福音書では過越祭が 3 回ほど記録されています。一回目は神殿を清めた時です（ヨハネ 2:13）。二回目はこの箇所です。そして三回目が、イエスが十字架にかかり、3 日目に甦えられた時です。これによって福音書に記されるイエス

の活動は3年ほどだということがわかります。見方を変えると、この出来事の一年後にイエスはユダヤ人によって処刑されたということです。

ヨハネは時期をあきらかにする（過越祭が近づいた頃）ことで「出エジプトの最初の過ぎ越しの出来事」でモーセに率いられたイスラエルの民が解放されるシーンと、イエスのイメージを重ねて読むことを期待したのでしょう。解放者であるモーセと真の解放者であるメシアのイエスを重ねています。ということは、人々にパンを奇跡的に与えるというのは、単なるすごい奇跡を行ったのだというだけではなく、モーセが神に祈り、天からマナを降らせて荒野にいる人々を養った（出エジプト記 16 章）ということの真の意味を伝えてくれます。イエスは「わたしは命のパンだ」と言いましたが、心と魂を真に満たすことのできるパンを与えてくださる方であることを示したわけです。

<パンの値段？>

200 デナリ分のパン云々のやりとりもフィリポとイエスのやりとりとして詳しく伝えられています。ところで、イエスがフィリポを試みるためにした質問は、荒野でモーセが神様にした質問とよく似ています。イエスはフィリポに、

**この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだらうか、と言われた。ヨハネ 6:5**

モーセは神に、

**この民すべてに食べさせる肉をどこで見つければよいのでしょうか。民 11:13a**

天からのマナで満腹していたはずのイスラエルの民は、こんどは肉がたべたいメロンが欲しいと泣き言をならべてモーセを困らせます。そこでモーセも神になきつきたという箇所です。イエスさまがモーセ、フィリポが神、ちょっとたとえが変？ イエスさまは試みにもユーモアのセンスがあったのでしょうか。

また第一朗読で読んだエリシャと召使のやりとりはきょうの福音とよく似ています。

**(召使は) どうして 100 人の人に分け与えることができるでしょうか? …彼らは食べきれずに残した。列下 4:43-44**

エリシャとイエスも多くの点で似ています。エリシャは「神の人」と呼ばれていますが、きっと何か深い意味があるのでしょうか。

<残ったパン>

またおもしろいのは、イエスが弟子達に残ったパンくずを集めさせたことです。集めると、12のカゴにいっぱいになりましたが、主イエスが与えられる恵みというのは、「おつりが来るような恵み」です。ちょっといいことがあったというだけではなく、「こんなこともしていただけるんですか!」とびっくりするような恵みです。主はまさに「わたしたちが求めまた思うところの一切を、はるかに超えてかなえてくださることができる方」です。

こんなに素晴らしい経験も私たちは感謝ではなく、自分勝手な希望に結びつけることがあります。イエス様を「困った時の打ち出の小槌」のように扱ってしまいます。「神様、こうしてください。そうすれば満足します。」「今、この問題を解決してください。そうすれば、あなたを信じます!」という具合です。(私も何度もあります。)

私たちは「言うことを聞く」よりも、「自分の言うことを聞かせたくなる」のです。15節を読むと、群衆はむりやりイエスを「自分たちを食べさせてくれる王」にしようとしたことがわかります。まさに「ご利益宗教の神様」に仕立てようとしたのです。これは悪魔が使った手段でもありました。荒野でイエスを試みた時、サタンは「神の子なら、この石がパンになるように命ぜよ」と誘惑しました。私たちに本当に何が必要かを分かっているのは私達ではなく、イエスさまの方です。悪魔の誘惑にこう答えました。

イエスはお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」マタイ 4:4

<最期に>

パンと魚は少年が持っていたものだと言ハネ福音書だけが証言しています。ヨハネ福音の最初の奇跡はカナの婚礼の席上で水をワインに変えたことでした。

カナの奇跡の時、宴会の幹事は勘違いして喜んでいただけでした。ほんとうに奇跡を見たのは水カメに水を満たしていた召使たちでした。

パンの奇跡をいちばんの間近で見っていた者は誰でしょうか？パンと魚を持っていた、そしてアンデレに連れられ、それをイエスの元に持ってきた少年ではないでしょうか。きょうの福音では5000人の男たちはイエスを王に担ぎ上げようとしたことが記録されています。同じ奇跡を見ている少年は何を思ったか、そしてその後なにをしたのか、福音書に少年のその後はでてきません。しかし、この奇跡の一番の証人はこの少年です。もし、あなたが彼だとしたら、そして、もしその後の少年を今のあなたが生きるとしたら…。

どうして石をパンにかえてはいけないの？どうやったら五つのパンと二匹の魚で大勢の人が満腹するの？

-----